

教育・保育理念 ・自分も友だちも大切に作る心の育成 ・学びの芽の育成 ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成	園の重点項目 ・一人一人の人権を大切に様々な人と関わりながら、子どもが安心安全に過ごせるようにし、主体的に生活やあそびを取り組む力を育む。	令和6年度 重点内容 1、愛されていると実感し、情緒の安定を図り、自己肯定感を育てる 2、生活やあそびの中で学びあい、考える力と体力の向上を図る 3、主体的にあそぶ活動を大切にし、学びに向かう芽を育てる 4、保護者や地域の方と連携し、子どもの育ちを支える 5、職員の質の向上をめざす
---	--	--

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価		こども園関係者評価	
てりし愛る、さ自情れ己緒て肯のい定安る感定とをを実育図感	安心して過ごせる環境の元で一人一人が愛されていると実感できる周囲の大人との関係を築き、人と関わる心地よさが感じられるようにする 一人一人の個性を認めお互いを思いやり、支え合う仲間意識を育てる 一人一人が多様であることに気づき、その多様さに応じ豊かに関わる力を身につけていく	・ありのままの子どもの姿を受け止め自尊感情を育てる	A	・一人一人を大切に、ありのままの姿を受けとめ寄り添う関わりを職員間で確認し取り組んできた。園児の気持ちに寄り添うことで思いを言葉や仕草で示し、意欲をもって様々な活動を楽しむ姿になってきた。異年齢保育を中心にしながら生活やあそびを楽しむ中で、友だちがしていることに関心を持ち真似たり、園児どうしで助け合ったり、考えを共有して遊ぶ姿につながっている。フリー制作や行事は5歳児を中心にアイデアを出し合い、みんなで作り上げることが出来た。 ・異年齢で過ごすことで、一人一人の思いがあることや自分の思いと違う思いをする友だちがいることを知り、一人一人の個性を受けとめ認めようとする気持ちが育ってきている。	A	・異年齢での活動、年齢での活動がこどもたちにとって自然に受け入れられていて活動しているのは日々の経験の中で気持ちも含め育っているのはよいと思う。
		・大人との愛着関係や安心感のもと人を信頼し人を信頼し生きていく力を育てる	A		A	
		・異年齢保育の中で温かい触れ合いを数多く体験できるようにする	A		A	
		・人との関わりの中で個性を認めてお互いを尊重し合える心を育てる	A		A	
		・お互いを思いやり認め合いながら共に育ちあう集団作りを行う	A		A	
		・生活やあそびの中で自分という個性を発揮できる力を育てる	A		A	
び生あ活い、あ考そびのる力とで体学	年齢発達に応じた楽しいあそびの保障や異年齢保育を通して、友だちと一緒に楽しく体を動かしながら体幹を鍛えることを継続的に取り組む	・子どもの発達過程から一人ひとりの育ちを見極めて関わりや支援を工夫する	A	・年間通してほぐしあそび、リズムあそびに取り組み、こどもの育ちに合わせた様々な運動あそびを取り組むことでしてしなやかな体や体幹も育ってきている。また様々な活動に取り組む中で体の使い方、遊び方を丁寧に知らせたことで楽しんで活動し、達成感を友だちや保育教諭と喜び合うことが出来た。しかし、厳しい暑さで戸外で遊ぶ機会が少なくなってしまう。遊びの中で体を何気なく動かすことで育つ運動機能を次年度は意識して取り組んでいきたい。また、姿勢保持は一人一人の特性を理解した上で引き続き取り組んでいく。 ・年齢に応じた保健指導や栄養指導を行い、園児自身が意識して取り組んでいけるように関わってきたことで意識しようとしている。取り組みを保護者へ発信し正しい生活習慣の理解につなげることができた。	A	・健康でしなやかな体作りととして計画的に様々な運動遊びを取り入れていることはよいと思う。体幹を育てることは大人になっても大切なことなので今後も取り組んで欲しい。
		・体を動かすあそびを定期的に設定し、心と体をほぐしながら体幹を鍛える	A		A	
		・生活の中で正しい姿勢に気づいて守ろうとする意識を育てる	B		B	
	基本的な生活習慣の定着を目指し家庭との連携、指導を行う	・保健活動や安全教育を通して自分の身体を大切にしようとする気持ちを育てる	A		A	
		・集団生活においてルールを守ったり自分の気持ちや感情を調整できる力を育てる	A		A	
		・子どもの発達の特性を伝え規則正しい生活習慣を保護者に啓発する	A		A	
し主、体学的びににあ向さぶう活芽動をを育て切るに	興味や関心がわくあそびの環境設定をし、自主性や意欲を伸ばす保育教諭の関わりを大切にする	・視覚的支援を含めた環境構成を工夫しあそびの中で意欲や探究心を引き出す	A	・園庭にミニビオトープを作り、年間を通してビオトープの変化(生き物の生態や水の形状など)に気づけるようにすることで、季節の移り変わりへの興味関心につながっていた。また散歩で田んぼや身近な自然(虫、草花など)に触れ、生き物や草花への興味関心もち、様々な媒体を用いて調べる探求心につながった。 ・廃材を利用したフリー制作は前年度経験があった5歳児が始め、イメージを友だちと共有し楽しく作ったり、自身のイメージも豊かにしながら制作する姿を年下の園児が見ることで憧れの気持ちや一緒に作ることで異年齢での取り組みに繋がっている。フリー制作に取り組むことで、様々な素材や道具の使い方、特徴を知り、イメージを形にしていくな難しさや形になった時の嬉しさ、友だちと一緒に作る楽しさを感じている。『みんなの広場』では5歳児が中心となりアイデアや遊び方を提案し異年齢で楽しく取り組むことが出来た。 ・環境構成では特別支援児が多いことも含め、園児の興味関心に合わせてコーナーを作り、視覚支援でわかりやすく取り組めるようにしてきた。次年度は情緒の安定を図る「ほっこりスペース」などより柔軟に対応できるようにしていきたい。 ・小学校との交流は昨年よりも回数を多く取り組み、5歳児園児の姿を小学校の先生方に知っていただき職員も就学前児の育ちに関しての学びに繋がった。	A	・ビオトープやこどもの遊びの中でこどもの気持ちに寄り添うこと・少し待って様子を見るのがこどもの思いを伝えることや意欲を育てることにつながっていると感じた。小学校でもビオトープの活動をしているので連携ができると感じたので検討していきましょう。。 ・見守るということは、大人でも必要なことと思う。思いを知るために待つことをフォトニュースを見てよくわかった。
		・生活やあそびの中で成功体験や失敗体験から考える力と次への意欲を育てる	A		A	
		・主体的に生き物や植物に関わり育てることが楽しめる環境を構成する	A		A	
	地域の特色を活かした教育・保育を行い、学びあい育ちあう関係づくりをすすめる	・小学校児童や職員との交流等連携を通して、教育・保育の質の向上を図る	B		A	
		・一人ひとりの育ちについて小学校と情報共有し円滑な接続を行う	B		B	
支携保えし護る、者子やど地域の育方ちとを連	地域の施設を散歩の中で知り、様々な人と関わる機会(世代間交流等)を大切にする	・地域の関係機関や団体と連携し、行事などへの参加を働きかけ交流を深める	A	・消防署、郵便局見学やおはなし会など、地域の施設と交流することで地域とのふれあいに心地良さを感じている。今年は、浸水被害を想定した避難訓練を青少年の家に依頼して実施し、緊急時のシミュレーションができたことは良かった。また、地域行事(サマーフェスタ)に参加し地域の方との交流をもつことができ、こども園を知ってもらうきっかけにもなった。 ・子育てサロンや園庭開放に取り組み、在宅家庭への親子のふれあいあそびや保護者との会話を通して関係づくりを大事にした。 ・小学校との交流は前年度より回数や訪問先も増え就学前児にとって有意義だった。次年度は他の年齢の園児とも小学校とのつながりを持って行きたい。 ・保護者とは懇談会や送迎時で子どもの育ちを共有できた。地域のイベント(青少年のフェスタ)に親しみのある「田んぼ」をイメージした出展し、共同制作する楽しさや地域の方との交流をもつ機会となった。	A	・小学校訪問の回数を増やし、地域の様々な方との関わりをしているのはよかったと思う。引き続き取り組んでいって欲しい。また他年齢の小学校訪問や小学生との交流(1年生以外も)もぜひ取り組んで欲しい。
		・職員が地域行事に参加し地域の人や関係機関職員との交流を持つ	A		A	
		・地域の施設等を訪れ、地域の人に親しみを持って関わる気持ちを育てる	A		A	
	子ども自身が地域に愛着を感じて、地域の人と関わりながら生活できるようにする	・地域の小学校との交流等地域の様々な人々と交流する機会を設定し体験を重ねる	B		A	
		・家庭状況に応じて適宜働きかけを行い親子関係の安定を図る	A		A	
		・研修や会議等で関係機関と交流し、子どもの現状を確かめ合い次の実践につなげる	A		A	
上職を員めのさ質すの向	教育保育の実践を振り返り、課題を見出し、研修や会議で検討を積み重ねる	・理念や方針、教育・保育課程や指導計画について、職員同士が共通理解する	A	・特別支援児が多く、職員がその特性を理解するために巡回指導担当が来園・検討会議の回数を増やし、職員が多く参加して学び、その後の園児の関わりに繋げていくようにしてきた。また、オンデマンド研修を計画外で追加し、研修して学ぶ機会を増やした。 ・園児を職員みんなで関わっているという観点で一人一人の園児の姿や育ち、今後に向けて、子育て支援という項目でそれぞれが書き出し、検討する機会も数回取り組み共有することができ日々の関わりや保護者との連携に繋げることができた。	A	・小学校の職員と園の職員との研修をする機会を持てるとよい。 ・外国籍の利用者がいるが多文化交流などもしてみるのもよい。
		・研究等を通じ、専門性や倫理性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う	A		A	
	支援の必要な家庭への働きかけや対応について実践を重ねる	・一人ひとりの家庭状況を把握し、職員の共通理解のもとで家庭支援を計画的に行う	A		A	
		・保育参観、個人懇談会、育児講座等の取り組み内容を工夫し保護者の養育力を高める	A		A	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
異年齢保育を中心にしながら、個々が安定した気持ちで過ごし自分の思いや感じたことを言葉や仕草で伝える。	・気持ちが安定して過ごせるように一人一人の気持ちに寄り添い、個々の姿にあった働きかけや環境構成を職員間で検討し園児が主体的に見通しをもって活動できるように取り組んでいく。 ・園児が伝えたい思いを言葉や仕草で返し、表現することの楽しさを伝えていく。
様々なあそびや活動を通して健康でしなやかな体づくりをする。	・リズム遊び、ほぐしあそびやアートヨガなど楽しいあそびに取り組みながら、体を動かすことの喜びを感じられるようにする。 ・園庭遊びや日々の生活の中で体を動かすことが、姿勢維持やしなやかな体づくりに繋がることを職員が意識を持ち、園児と一緒に取り組んでいく。 ・保健指導、栄養指導をおこない体の大切さに関心を持てるよう、視覚支援や実践を通して姿勢維持や体幹づくりに繋げていく。
一人一人が多様であることに気づき、その多様さに応じ豊かに関わる力を育てていく。	・異年齢保育で過ごす園児一人一人の思いが、自分とは違う思いがあることに気づき、思いを伝え合うことや活動をする中で一人一人の個性を受けとめ認めようとする気持ちを育てる。 ・園児一人一人の個性や特性を職員間で共有し、手立てを検討し進めていく。また、研修内容として取り組んでいく。

評価の基準

- A・・・達成している
B・・・おおむね達成している
C・・・取り組みが不十分である

園長より

一人一人のこども育ちを大切に寄り添い、情緒の安定を図ることで『ひるまのおうち』で、自分のしたいことを経験して自信につながっています。異年齢保育の生活や遊びではそれぞれの思いを身振りや言葉で伝えあい、考えが違うことを知り、折り合いをつけながら互いを認め合おうとする心も育ってきています。また、保護者や地域にご理解をいただき様々な経験を重ねることができ、今後も取り組んでいきたいと思っています。
こどもの育ちを大切に、保護者や地域との連携やこどもの育ちにかかわる職員研修を重ね、よりよい教育・保育になるよう取り組んでいきます。